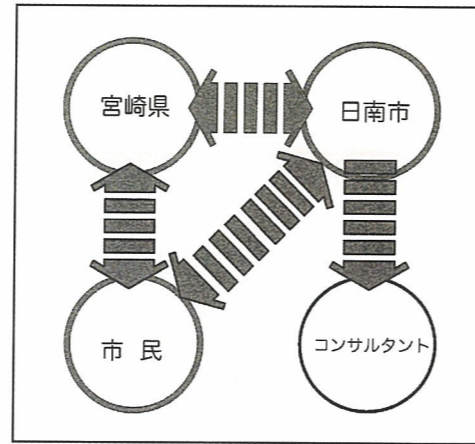


STEP-0 <堀川運河整備・基本構想段階>

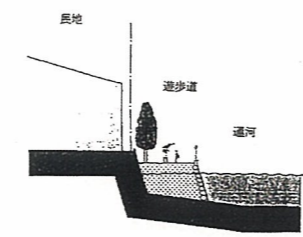
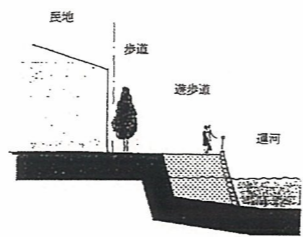
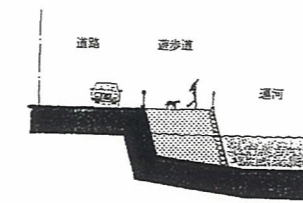
堀川運河は、市民による埋立反対運動によって歴史的港湾施設として再生されることとなったが、基本構想(H4年度)では、水辺の遊歩道整備が優先され、住民との意見交換会等も開催されたが、基本的には「行政主導型」で進められ、歴史的石積護岸も一部を残す形でプロムナード整備が進められていた。



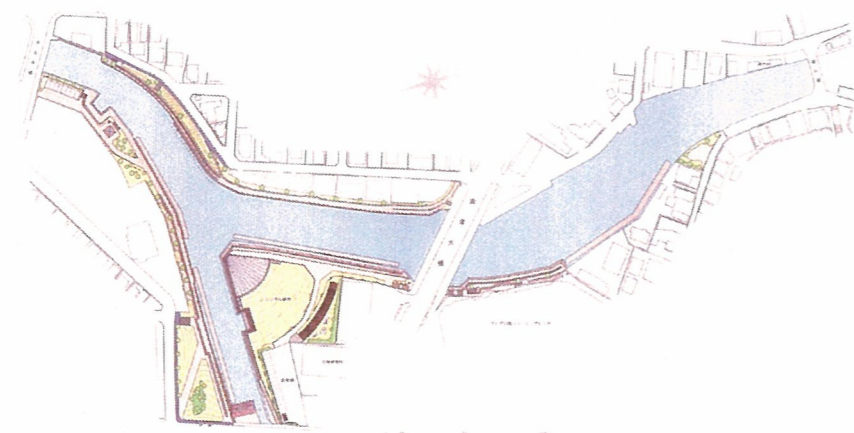
▲シンボル緑地周辺整備イメージ



▲堀川橋周辺整備イメージ(H4年度時点)



▲堀川運河沿い遊歩道整備断面図(基本的に旧石積護岸を埋め前面に張出し歩道を整備する方針だった)



▲「堀川運河整備基本計画(H10年度時点)<住民説明会に基づき変更した計画案>



▲堀川運河埋立計画(S51年度)



▲油津大橋下流右岸側完成区間(H10年度)

●昭和25年頃油津港



●昭和40年頃岩崎商店街



表- 堀川運河の整備経緯

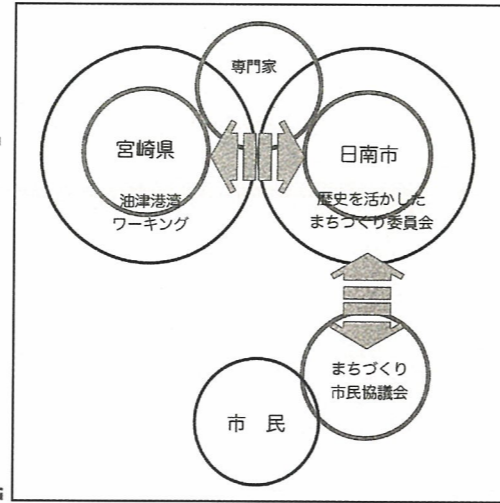
年次	油津地区	備考
貞享3(1686)	飢肥藩主伊藤祐実により堀川運河整備完成(2年4ヶ月)(昭和初期まで飢肥杉搬出場として繁栄した)	
M36(1903)	堀川橋完成	
S27(1952)	油津港重要港湾指定	
S30(1955)	港湾計画策定	
S49(1974)	水質汚濁によるヘドロ悪臭のため堀川運河一部埋立	飢肥城復元事業着手(～S54年)
S50(1975)		文化財保護法改正
S51(1976)	港湾計画改訂(堀川運河埋立、緑地化計画)中央港審議会計画部会で大油津港建設承認	伝統的建造物群保存地区決定及び「日南市伝建地区保存条例」制定
S52(1977)		国重要伝統的建造物群保存地区選定
S53(1978)	大油津港起工式	
S55(1980)	「一生会」設立(※1)	日南市飢肥町並保全修景計画策定
S58(1983)		飢肥本町通り拡幅工事着手
S59(1984)	「日南大学」設立(※2)	
S62(1987)	日南市産業活性化協議会(NIC21)設立	
S63(1988)	堀川運河祭り開催	
H2(1990)	日南市商店会連合会結成	
H3(1991)	堀川運河ソサエティ開催・「運河環境整備基本構想(県)」	やっちみろかい酒谷結成
H4(1992)	堀川運河を語る会開催・「堀川運河基本計画(市)」 「男はつらいよ寅次郎の青春(第45作)」油津ロケ	
H5(1993)	「油津-海と光と風と-」自費出版(NIC21)	
H6(1994)	「油津港港湾計画改訂案承認」(堀川運河保存整備決定) 歴史的港湾創造環境事業指定 「油津みなとまち商店会・人づくり委員会」結成	
H7(1995)	「蘇れ油津 港と運河のまちづくり」計画策定 赤レンガ館保存活動・第15回豊かな海づくり大会開催	
H8(1996)	観光資源保護調査(日本ナショナルトラスト) 歴史的港湾創造環境事業着手	
H9(1997)	堀川運河跡の調査実施	
H10(1998)		日南市都市景観形成基礎調査
H11(1999)	油津大橋下流右岸側完成(約70m)	商店街活性化基本構想
H12(2000)	見法寺橋下流右岸側完成(約60m)	全国町並みゼミ日南大会
H14(2002)	油津地区歴みち事業調査(市)・歴史的港湾整備計画見直し(県) 日南市まちづくり市民協議会発足(公募)	
H15(2003)	油津地区都市デザイン会議設立・D区間竣工 全国都市再生モデル調査実施・「赤レンガ館」市へ寄贈	
H16(2004)	堀川運河・国有有形文化財登録・日南市景観シンポジウム開催 「景観形成事業推進調査」(九州地方整備局) 市民協議会景観街並み委員会による景観ルール案提言	「景観法」制定 NHK連続テレビ小説「わかば」ロケ
H17(2005)	「油津漁港環境整備基本構想(案)」策定調査(県) 「日南市景観形成基本条例案(市)」色彩研修会開催	

※1「一生会」・昭和56年に宮崎県が組織する若手商工業者育成機関として地区在住者により15年余り途絶えていた油津大綱引きを復活発展させる事を目的として設立され、その後まちづくり活動と共に発展解散した。

※2「日南大学」・昭和59年に音楽好きな10名程度の人達によって設立されたジャズを中心としたコンサートの企画運営を行うボランティアグループ。昭和63年に主催した堀川運河祭りが契機となって堀川運河埋め立て計画の見直しが始まった。

STEP-1 <堀川運河整備・計画及び検討体制の再構築>

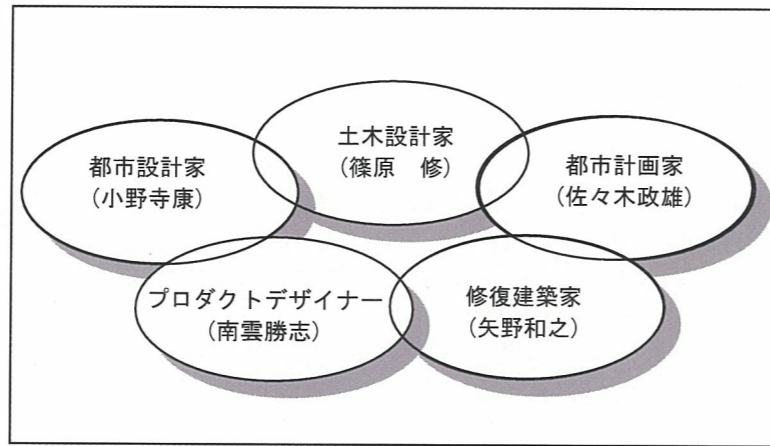
・ H14年度に堀川運河の文化財的価値が再評価され、歴史的港湾環境創造事業の計画見直しが行われ、併せて日南市による歴史まち事業調査により油津地区全体のまちづくり構想が策定された。この時点では、県・市は各々の委員会及びWGを設置し検討がされた。また市民公募による「日南市まちづくり市民協議会」が同年設立され、市民による自主的な活動もスタートした。



■ 堀川運河再生のための設計チームの編成

・ 堀川運河の歴史的文化的価値を再評価し、水辺空間として再生するために、篠原修教授のもとに、都市計画・文化財修復・土木設計・都市設計・デザイナーによる設計デザインチームが再編成され、宮崎県(都市計画課・港湾課・文化課)＋日南市(都市建設課・社会教育課)による計画検討体制が設置された。

・ 堀川運河整備にあたっては、「遺構保存」、「護岸整備」、「緑地整備」の3つの作業体制を定め、互いに調整し進めることとした。



■ 全体整備コンセプト

「歴史資産を活かしつつ、堀川運河にとけ込む風景づくり」

- 1) 歴史的遺構を活かした運河整備
- 2) 運河自体が浮かび上がるデザイン
- 3) 水辺プロムナードの創出



● 工事前の堀川運河(H10年頃)

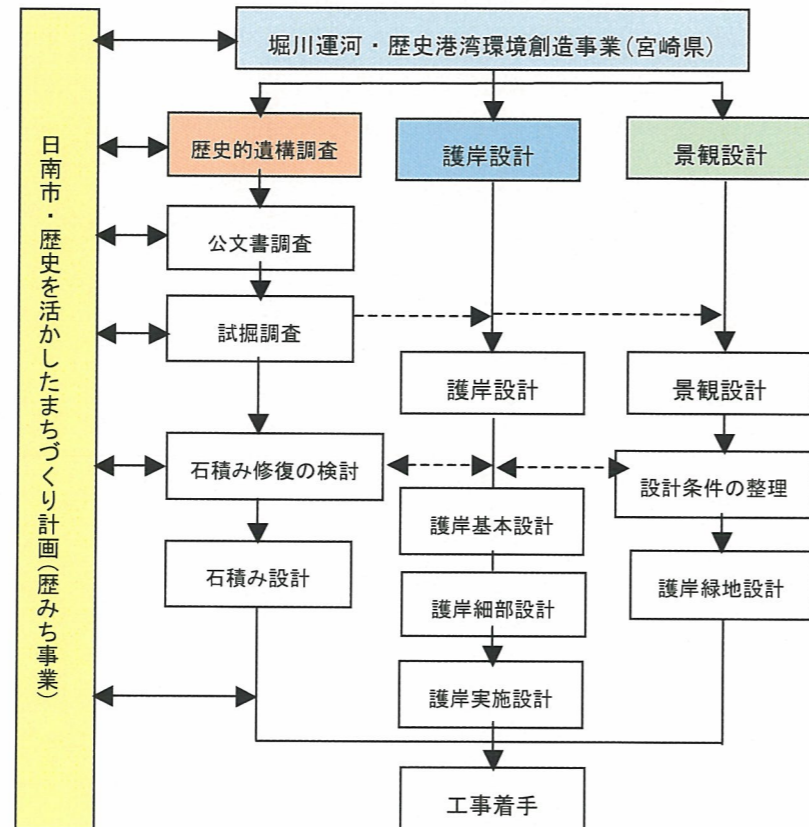
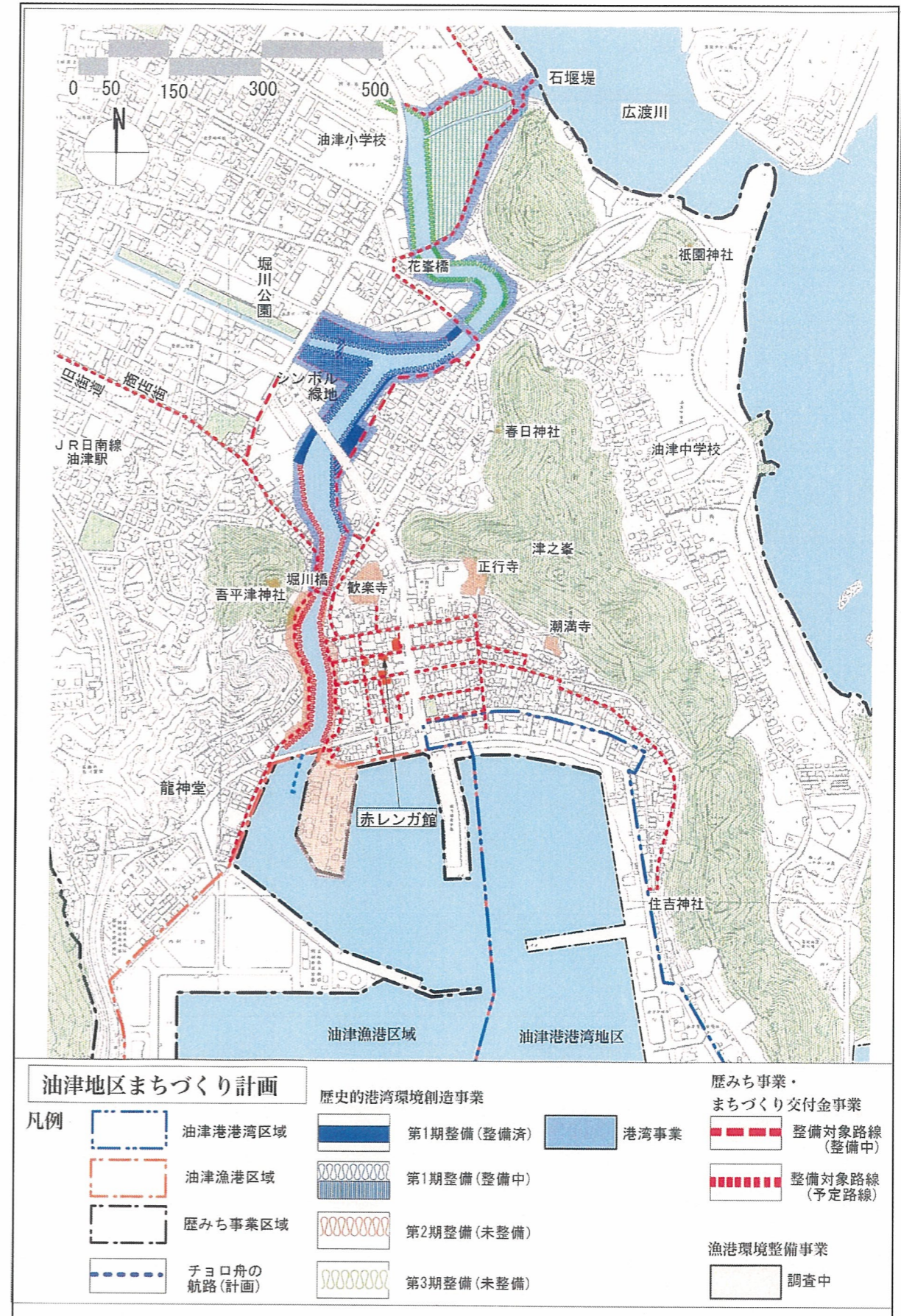


図 - 油津地区歴史を活かしたまちづくり計画における全体整備計画図(日南市)



1. 堀川運河における歴史の読み取りから価値・魅力を最大限に引き出す

1) 堀川運河の文化財的評価について

堀川運河は、江戸時代の天和3年(1683)から貞享3年(1685)にかけて飢肥藩により飢肥杉積出しの施設として開削されたものである。木材輸送のため、航路を短縮し、河口の複雑な水の流れを避ける意図をもっており、全国的にも類例のない貴重なものである。加えて明治・大正・昭和期の日本が近代化していく中で、護岸の石垣化、貯木場や物揚場の設置、石造アーチ橋の造営と軽便鉄道設置に伴った運河の改築等々がなされ、戦後コンクリートに前面を覆われた部分があるものの、それらがほとんど残っていることは特筆すべきことである。堀川運河は江戸時代から明治・大正・昭和にいたる、300年以上も人々が営々と築きあげてきた、全国規模にみても貴重な土木遺産といえる。

2) 文献及び資料調査

堀川運河の変遷を把握するために以下の2点の史料を重点的に調査した。

① 「堀川運河関連公文書」(宮崎県文書センター所蔵)

宮崎県文書センターには県発足以来の公文書が約45,000点保管されており、そのうちの堀川運河及び油津港に関連するもので大正元年(1912年)から昭和22年(1947年)までのものを収集した。

② 宮崎県土木部港湾課所蔵「堀川運河護岸設計図書」

宮崎県土木部港湾課には戦後以来の護岸工事設計書(標準断面図)が保管されており、昭和26年(1951年)から平成8年(1996年)までのものを収集した。

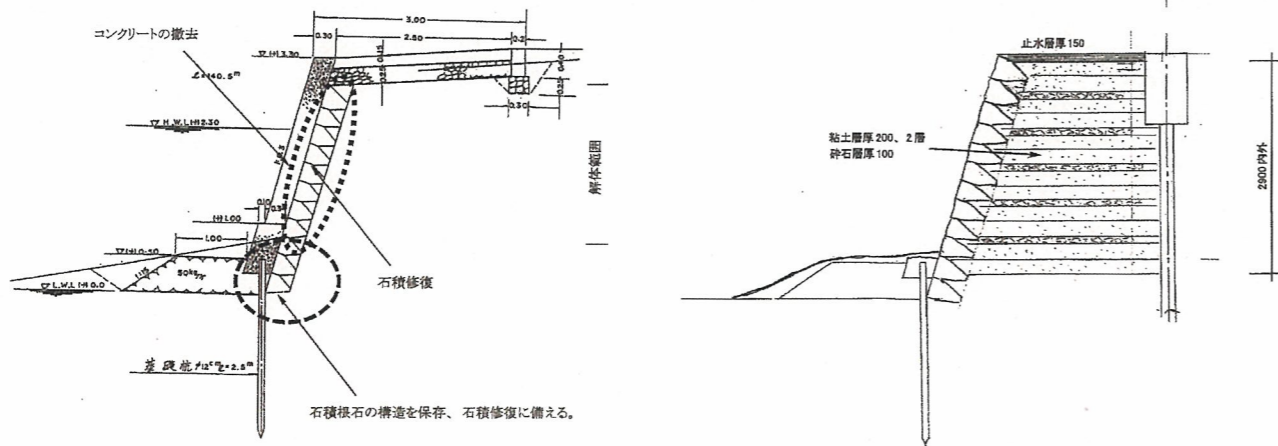


修復方針

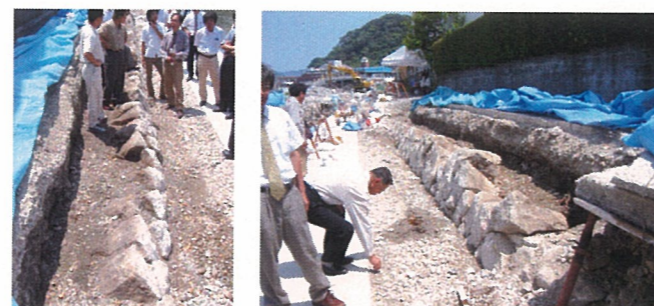
復元においては、現状の根石部分を解体した場合、石積み全体の復元に困難が生じる可能性が大きいことから、それを保存・存置し、試掘調査による石積みを補正する考えで取り組むこととした。また、その構造については、歴史的・文化的価値を損なわないことを前提とし、伝統技法を用いて修復を行うこととした。

修復手法

石積みは、石積み遺存状態の間知石空積みとし、裏込工は粘土を使用する工法とする。砕石・石灰を混合した粘土を層状に積み重ねる伝統的な技法を用いる。また、排水の必要性が認められることから、栗石層を設けることとし、粘土層と栗石層の多層構造とした。



▲平成14年12月4日撮影
文献調査から昭和26年の石積みが埋まっていると予想されていた。

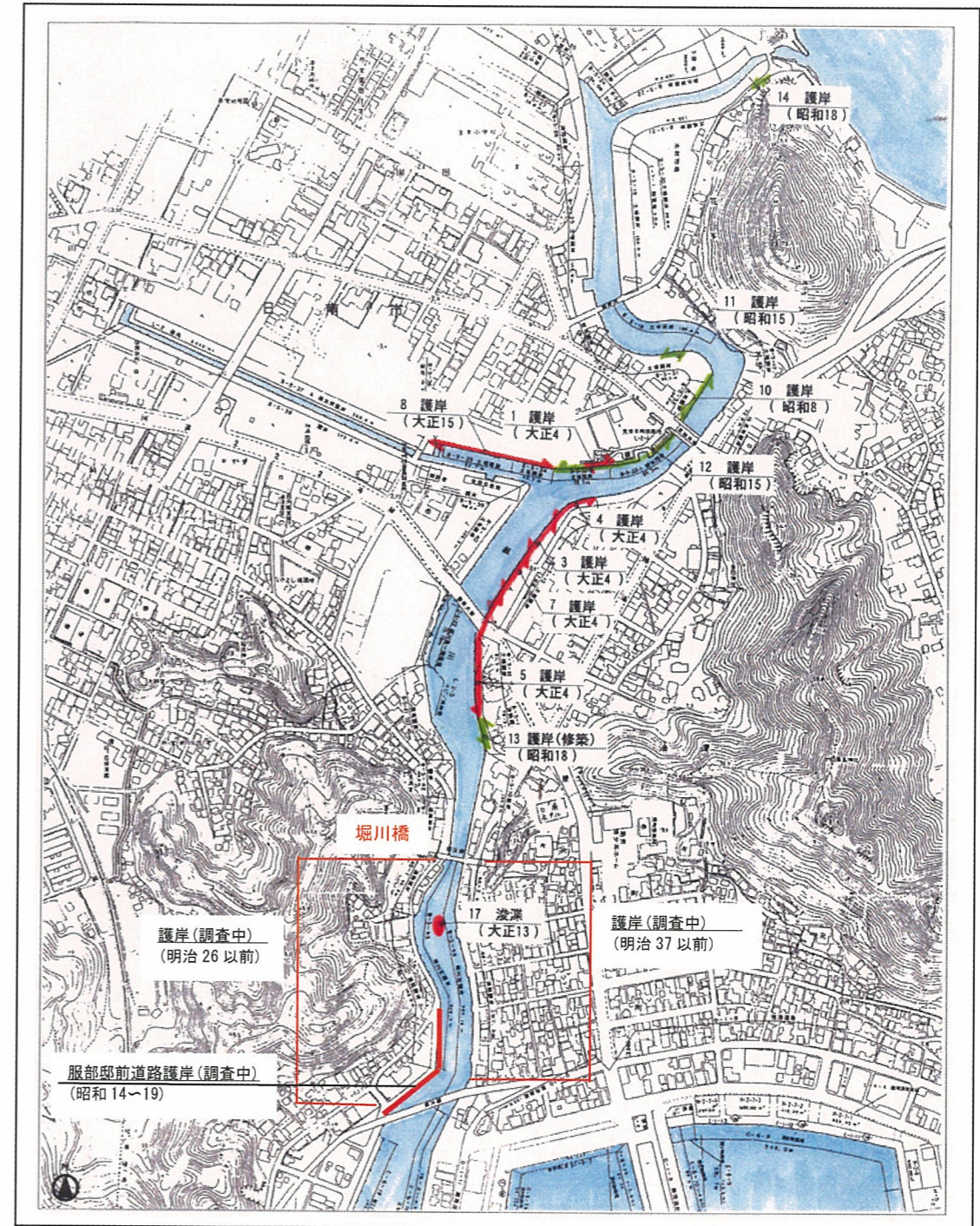


▲平成14年8月20日撮影
文献調査に基づく昭和36年の石積みの修復

堀川運河の標準断面図から堀川運河の現状を把握。宮崎県文書センターに施工年代を記した工事記録史料があり、一部の石垣の施工年代を特定した。石垣の遺存状態は、次の4つの大別する

- A: 石垣が改変なく遺存している箇所
- B: 石垣の下部がコンクリートで埋設されている箇所
- C: 石垣の前面すべてがコンクリートで埋設されている箇所
- D: 石垣が遺存していない箇所

図- 公文書調査により確認された護岸の施工年代



2. 堀川運河における近代土木遺産と共生する新たなウォーターフロントデザイン

1) 護岸緑地整備のデザイン方針

① 旧石積み：

- 旧石積みは文化財調査によって確認された位置と同じ位置に修復することを基本とする。また、用地の問題から旧石積み上にプロムナード整備が困難な箇所は、護岸を前出ししその背後に旧石積みを保存する。

② 護岸端部：

- 護岸端部に笠石を立ち上げて護岸の質感を強化し護岸表情を端整なものとする。更には、護岸端部笠石に一体化したフットライトを設置し、水際部の安全性を向上させるとともに、ウォーターフロントの演出を行う。

③ 防護柵・照明：

- 防護柵・照明柱のデザインはシンプルで素材感豊かなものとし、それ自体が主張するのではなく、運河の風景を引き立てる要素としてデザインする。

④ 係船環：

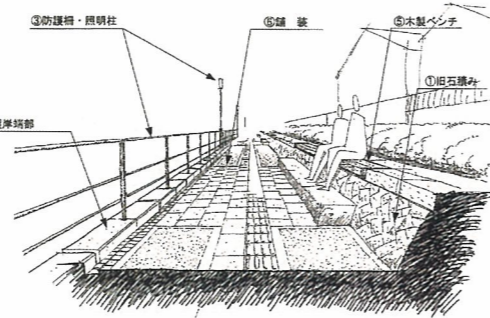
- 船舶が防護柵にロープを巻くなどして係船することが予想されることから、防護柵の破損を避けるために、防護柵の支柱位置に合わせて護岸上部に係船環を設置する。

⑤ 木製ベンチ：

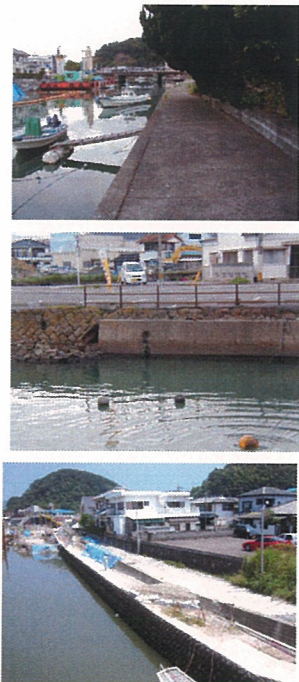
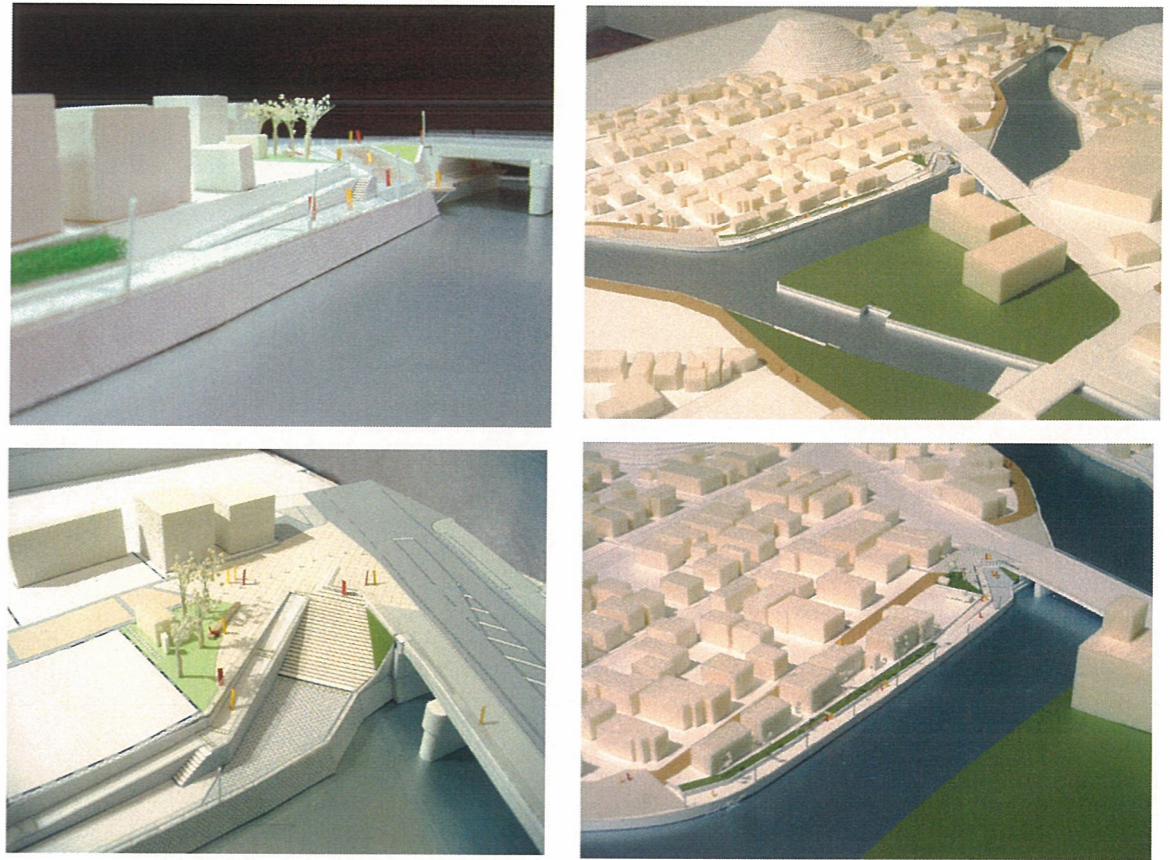
- 既設護岸背後に出現した旧石積みは天端部を断続的に木製ベンチに変化する休憩・眺望空間として活用する。また、ベンチ足元には立ち上がり石を置きフットレストとする。また、このフットレストは、プロムナードの中で通る人と休憩する人とのすみわけを図るものとする。

⑥ 舗装：

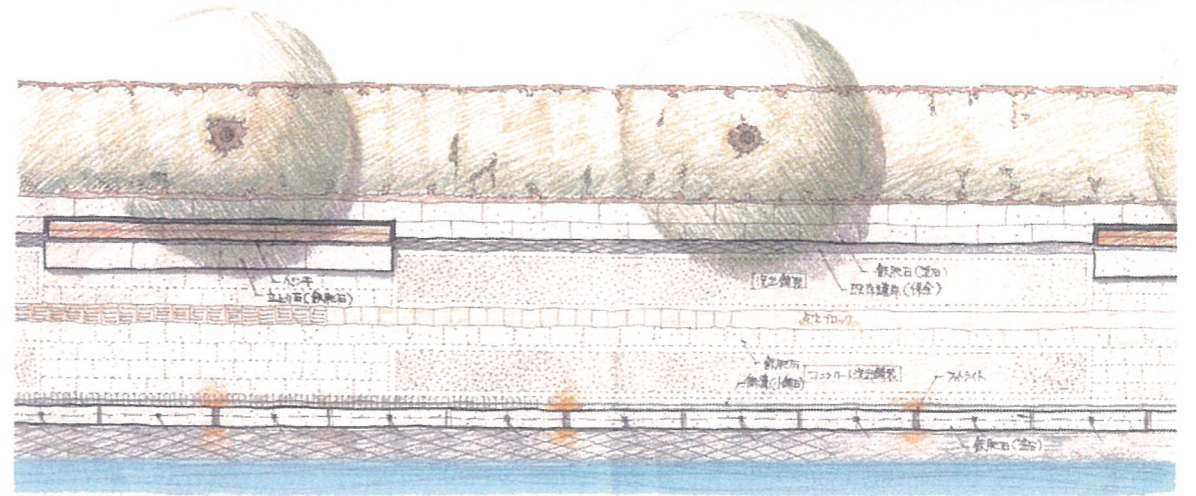
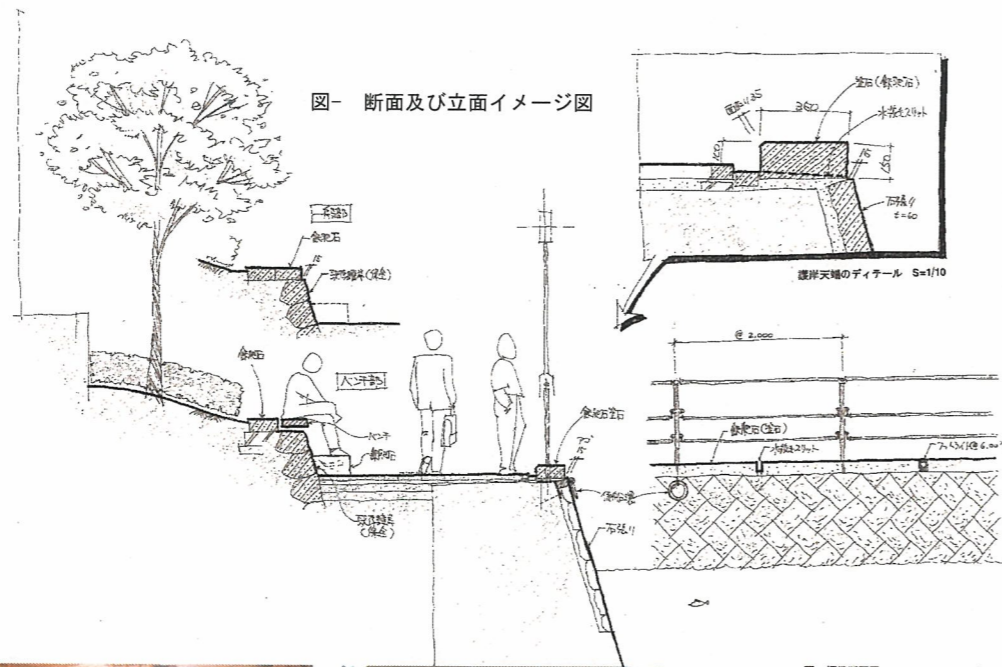
- 舗装材は現地産である鉄肥石を使用することを基本とする。また、色彩はグレーの鉄肥石を引き立てるためにモノトーンのシックなトーンに統一する



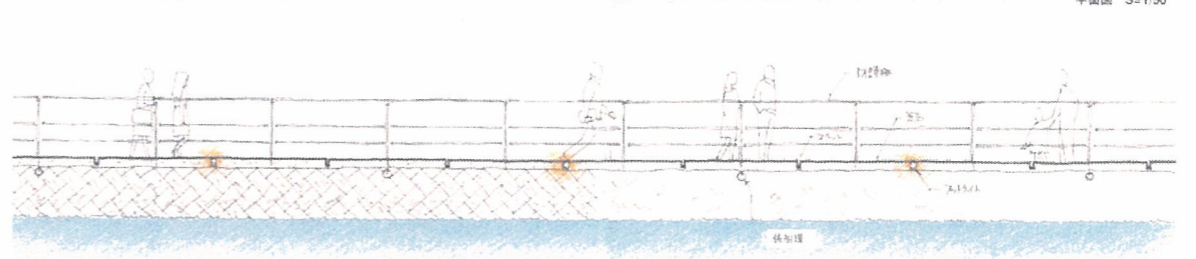
▼ D区間・模型スタディ



▲ 整備前のD区間周辺



平面図 S=1/50



▲ D区間・平面図。立面図



▲日南市歴史まち委員会 (H14年8月)



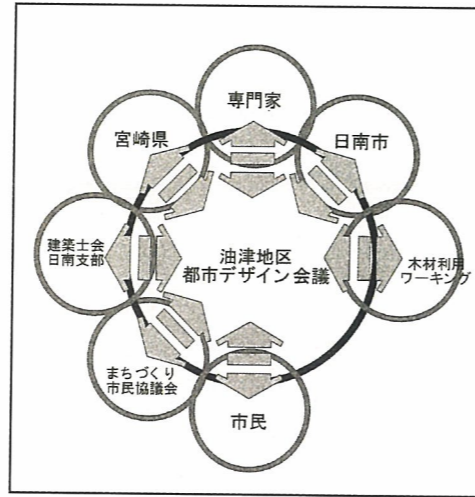
▲油津港湾事務所WG (H14年8月)



▲縣市合同WG (H14年6月)

STEP-2 <都市デザイン会議・複合的体制によるデザイン>

- ・ H15年度からは、宮崎県+日南市共催による「油津地区都市デザイン会議」が発足し、現場での発掘成果、設計・施工状況やまちづくり計画のみならず市民協議会の活動状況等、歴史を活かしたまちづくりプロジェクト全体を統括する会議として機能する。また地場産材である飫肥杉の利活用を検討する木材WGが県・市・地元関係者・専門家によって設置された。



■ 都市デザイン会議における検討協議



「会議事前WG」(東京)
・ 県、市、学識、専門家による技術的検討を会議前に徹底的に議論する。

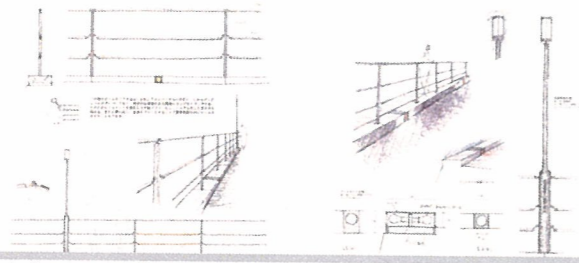


「現場視察」(油津)
・ 会期前後に現場の進捗状況を確認する。

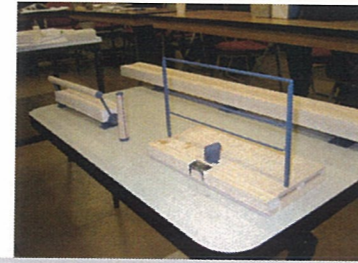


「都市デザイン会議」(油津)
・ 会議は基本的に一般市民が公聴でき、オープンに議論される。

照明灯・手摺デザイン



デザイナー南雲氏の照明灯・手摺エスキース



スタディ模型による検討



工場での実物検討(県・市担当者の参加)

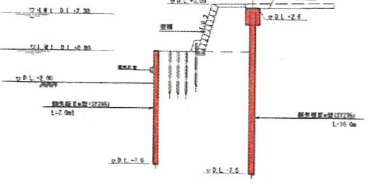


現場での据え付けチェック



現場での照明点灯実験

石積護岸修復



石積護岸の修復計画図



発掘後の石積護岸



ベテラン石工による伝統的石積修復作業



修復された石積護岸



子供たちの石工教室

木材WG・木橋デザイン



県・市・地元関係者・専門家の木材WG



木橋スタディ模型による検討



現場・製材所での協議

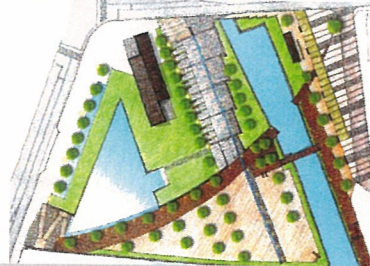


ボードウォーク試作品



木橋の実物模型による検討

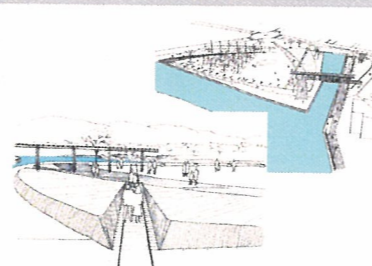
シンボル緑地デザイン



シンボル緑地デザイン(H15時点)



市民との意見交換会による協議



シンボル緑地デザイン検討



シンボル緑地デザイン(現在)



1/5 木橋模型(市民有志製作)



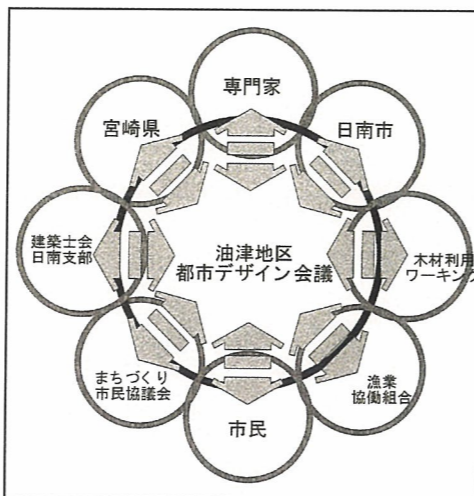
木橋の伝統的蟻首継ぎ手



木橋の実物模型による検討

STEP-3 <都市デザイン会議・市民参画による景観づくり>

・ H15年度から発足した「油津地区都市デザイン会議」の取り組みは、市民有志による「まちづくり市民協議会」の活動や「建築士会日南支部」「まちづくり研究会等とも連携し、自主的な油津地区の景観ルールづくりや色彩研修会・勉強会などに広がっている。また、H17年度からは、堀川橋下流～油津港区間において「漁港環境整備事業」も導入されることとなった。



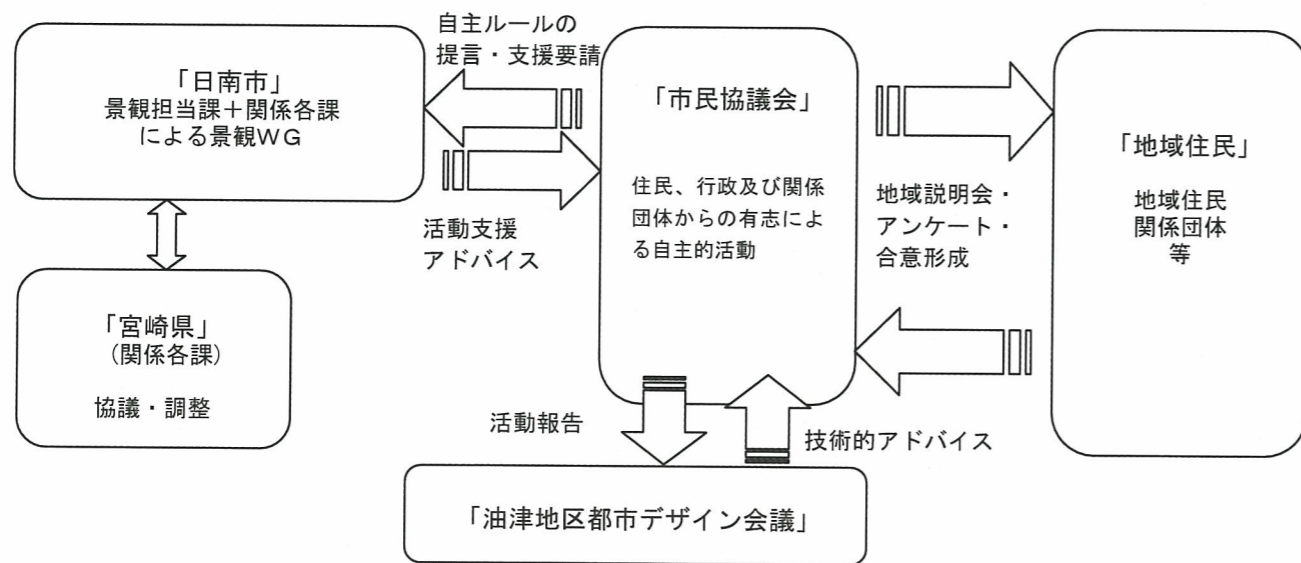
■ 「日南市まちづくり市民協議会」

平成14年4月より、日南市都市建設課が、住民参加手法をとり入れ広く市民の参加を呼びかけ、公募により街づくりに関心、熱意のある市民が「知恵」と「労力」を出し合い、行政や他団体と協働して、住みよい身近なまちづくりを目指すために“市民の集まり”として「日南市まちづくり市民協議会」が発足し、まちづくり市民活動の中核的存在を担っている。平成17年2月現在の会員数44名（内女性6名）20代から80代までの市民で構成

組織体制は、会長、副会長、幹事を置き、以下の5部門の専門委員会が中心となり活動方針を決定、幹事会で全体会に提出する議案を討議、そして全体会で承認決議し活動を展開しており、平成18年度からは、日南市囑託から自立組織となり、NPO組織化をめざしている。

- 「1. 景観まち並み委員会」油津の町の景観まち並みを考える。「景観ガイドプラン(ルール)」たたき台作成
地域の個性を生かした魅力的な街並み形成の必要性を見出す
- 「2. 木かげづくり委員会」現存する公園のリニューアルを検討し、市民の考える理想の公園を検討し、模型を作り日南市全域の公園マップを作成する。
- 「3. NPO委員会」日南市におけるNPOや市民団体にとっての「NPO支援センター」の必要性を市に提言する。
- 「4. わっしょい委員会」イベント創設の可能性を考え、市民の活性化に寄与する。
- 「5. 市町村合併委員会」まず勉強、内容を把握することから始め、合併について啓蒙する。

図- 油津地区・景観計画(案)策定における「景観まち並み委員会」の役割(行政と市民の橋渡し役)



■ 「まちづくり市民協議会」が主体となったまちづくり・景観づくりへの取り組み



タウンウォッチング(H14年8月)



タウンウォッチング後のディスカッション(H14年8月)



シンボル緑地意見交換会(H15年2月)



市民景観勉強会(H16年10月)



デザイン会議との座談会(H16年10月)



色彩研修ワークショップ(H17年3月)



色彩研修フィールドワーク(H17年12月)

色彩研修フィールドワーク(H17年12月)

■ 「市民有志」による自発的なまちづくり・景観づくりへの取り組み

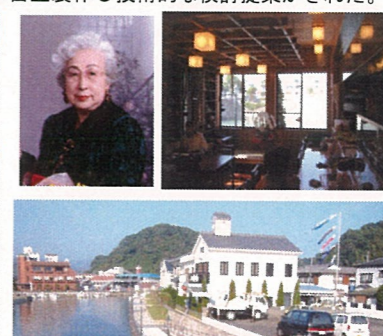
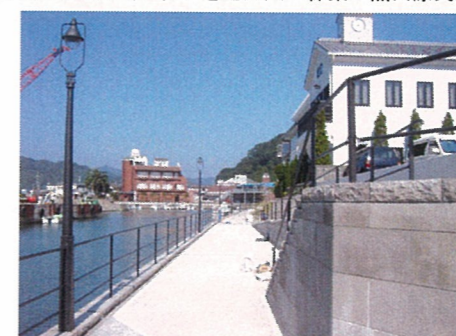
- 「木橋」模型の自主製作



堀川運河シンボル緑地に架ける「木橋」1/5模型を地元大工棟梁・熊田原氏が自主製作し技術的な検討提案がされた。



- 堀川運河沿い店舗敷地の提供によって、鉄板杉ボードウォークの一体的整備が計画されている



- 堀川運河沿いにギャラリー併用の店舗新築(まちづくりに関心の高かった戸田禮子氏(故人)が、運河整備に併せてカフェテリアを新築し堀川運河散策の休憩場所・ミニコンサート等の場を提供してくれた(現在休業)